

2025年5月1日

中東関係者各位

九門康之

## 「中東なう」2025年5月

### 1. シリアが地域融和の中心に

シリアが地域融和の中心になりつつある。産油国とは、サウジアラビア・UAE との関係改善で成果をあげている。サウジアラビアはカタールとともに、シリアの世銀債務肩代わりを発表した。サウジアラビアは、イスラエルのシリア攻撃に対して、シリアを擁護するメッセージを発したが、イランのシリアへの影響力が強まって以降途絶えていた反応だ。シアラア大統領はUAEのモハメッド・ビン・ザーイド大統領と会談、UAEのイスラム原理主義への懸念緩和図ったものと思われる。近隣では、レバノンとの関係再構築に首脳会談を実施。トルコとは反アサド政権時代から関係が良い。シリアは国旗を変更した。アサド政権時代の国旗（★二つ）を旧反体制派が使用していたデザイン（★三つ）に変更した。

他方、変化に対する懸念もある。イラクのシーア派は、5月にバグダッドで開催するアラブサミットにシリアのシアラア大統領を招待することに反対した。ヨルダン国内でのムスリム同胞団の活動を禁止したが、シリアのシアラア氏が過去イスラム原理主義グループに所属していたことが同胞団の活動を刺激することを懸念しての動きと推察する。

### 2. イランと米国の核交渉

4月初め頃には難しいであろうと思われていたことが現在進行している。報道のトーンを見ると、西側メディアが進展に慎重であるのに対し、イラン国営通信は交渉の開始を明るく報じている。ハーメネイ最高指導者が「米国のイランへの投資に反対しない」と発言していることは、イランが交渉にある程度の見通しを立てているのではと思わせる。4月26日の三回目の交渉は延長という形で継続している。一般には、短期間で両社が合意に達することは難しいと考えられている。しかし、仮に合意した場合、中東地域への総合的なプラスのインパクトは大きい。まず、イランを仮想的としないことが広くアラブ諸国で共有されることから両者間の交流が活発化する。これを受けて貿易は増加するであろうことから、地域経済にプラス効果が期待できる。イランの代理勢力による武力行使の可能性も低くなるので近隣諸国の軍事費用の削減にもつながる。

### 3. その他のニュース

●トランプ大統領、5月にサウジアラビア、カタール、UAEを訪問●イスラエル、トルコの軍事プレゼンス拡大に警告●レバノン、ヒズボラの武装解除への動き●米国、中東諸国にも一律関税、一部に相互関税●ネタニヤフ首相、トランプ大統領と2回目の会談●サウジア

ラビア、米国と核技術交渉●エジプト、アフリカ輸出入銀行が 20 億ドル融資検討●サウジアラビア、国防大臣がイランを訪問、最高指導者とも面談●湾岸、原油価格低下が最大のリスク●サウジアラビア、経済特区進出企業に免税特典を提示●シリア、アッバース大統領と会談●トルコ、人口衛星を国産●シリア、代表団が IMF を訪問●

以 上

Copyright 2025 Yasuyuki Kumon Institute (九門康之研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from Yasuyuki Kumon Institute.

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。